



校長先生の挑戦 10：SDGsって何のため？

1月6日の始業式では、「SDGsって何のため？」という話をしました。10月以来、2回目のSDGsです。

【サスティナブル・ディベロップメント・ゴールズ】

(持続可能な開発目標)では、地球上の誰一人取り残さないことをスローガンに、「①貧困をなくそう」「②飢餓をゼロに」といった、主に発展途上国において深刻度が高い問題から、「⑫つくる責任つかう責任」「⑬気候変動に具体的な対策を」などの、主に先進国において早急な取組や対応が求められる問題まで、全部で17の目標(169のターゲット)が掲げられています。



今回は、「⑥安全なトイレと水を世界に」を取り上げました。はじめに、ユニセフのホームページからある動画を見てもらい、その後、みんなで一緒に考えました。水くみをするエチオピアの少女アイシャの1日を3分ほどにまとめた動画です。

6:30 起床、まだ薄暗い中、らくだの背にポリタンクを積み自分で歩いて出発。
8:15 日本なら朝の会が始まる時間です。アイシャはひたすら歩いています。
10:40 ようやく黄土色の水が流れる小川に着き、水を汲み、顔を洗うアイシャ。
11:20 水を汲んだポリタンク2つをラクダに積み、帰路につくアイシャ。
13:10 止まって座り込み、休憩をするアイシャ。食事を見る様子はありません。
15:45 ようやく家に帰り着き、出迎えた家族に微笑むアイシャ。
16:20 固そうなパンをおいしそうに食べるアイシャ。おそらくこの一食だけ。
17:40 兄弟らしい男の子から勉強を教わるアイシャ。この日一番の笑顔です。
18:30 僅かな水で食器を洗い、お茶を飲むアイシャ。水はアイシャのおかげ。
21:30 眠りにつくアイシャ。また、明日は、今日と同じ1日がはじまります。

1日の大半を水くみに費やす。彼女がいつからこの生活を始めて、それがいつ終わるのかはわかりません。ただ、他ならぬ水のことですから、余程のことがない限り、1日たりとも休むことはできないでしょう。アイシャが自分自身のことをどう思っているかも分かりません。もしかすると、アイシャの周りの少女たちもみんな同じような生活をしていて、アイシャ自身もそれが当たり前だと思っているのかも知れません。でも、「アイシャの働きがなければ家族は今日飲む水にも困る」それは確かな事実です。



毎日を精一杯生きているアイシャ。もし、彼女が目の前にいたら、その美しい瞳をまっすぐに見つめることができるでしょうか？彼女に知られても恥ずかしくない生き方ができているでしょうか？今、この世界で共に暮らしている人々のことを「知って」「感じて」「考えて」「行動する」。外へ向けた行動も大切ですが、自分の行動や生き方を見つめ直すことも大切なSDGsです。

「私はダンサー」子どもの声を聴く会発表：鈴木栄乃さん

1月21日に、日南市子どもの声を聴く会が開催され、本校からは、6年生の鈴木栄乃さんが参加し「私はダンサー」というテーマで発表しました。留学生との交流や、熱中して取り組んでいるダンスを通して得た実感から、小村寿太郎の「正直であれ」いう言葉を自分なりに解釈し「ありたい自分」の姿を目指して前進していきたいというポジティブな思いを堂々と発表してくれました。



アルミ缶から作品（鋳造）できました。



1月10日に、6年生は、アルミニウム鋳造による作品づくりに挑戦しました。まず、粘土で原型をつくり、それを石膏で型取りします。型から粘土を取り出したら十分乾燥させ、その間にひたすらアルミ缶を潰します。アルミ缶の目安は一人10個。それでおよそ80グラムの作品ができます。この日は、ドライヤーで火力を上げた七輪でアルミ缶を溶かし、型に流し込みました。

原料であるボーキサイトからアルミニウムを精製するには大きなエネルギーが必要ですが、一旦、アルミニウムとなったものを溶かして再利用すると、その5%のエネルギーで済むそうです。アルミニウムの再利用は、限りある資源の有効活用であると同時に、つくりだすためのエネルギーの削減にもつながるのです。アルミニウムは、リサイクルコストが極めて低く、リサイクルの優等生とも呼ばれています。

金属が溶ける瞬間や、それが、自分が思い描いた形へと変わっていく様を目の当たりにすることで、言葉や概念としてではなく、実感として、SDGsについて感じたり、考えたりしてくれると良いなと思っています。



持久走、長縄、外は寒いけれど、体も心もポッカポカ。



1月24日に、持久走記録会が開催されました。当日は同じ距離をいかに早く走れるかではなく、同じ時間でいかに長い距離を走れるかという自分との戦いでした。

子どもたちは、12月から、体育の授業や朝の時間を使って持久走に取り組んできました。持久走のある朝は、早めに運動場に出て、学級担任の先生を中心に、学級毎に長縄をする姿が見られました。たかが長縄、されど長縄。

はじめはなかなかうまく跳べなかっただ子供たちが、何度も何度も失敗し、周りもそれを根気よく応援しながら、一人、また一人と跳べるようになっていきます。一人だったらきっとすぐに諦めてしまう子供たちでも、みんなの応援の声が、みんなと一緒に飛びたいという気持ちが、「恐怖の長縄ぐるぐるゾーン」への一步を踏み出させます。

そんな日本の学校では当たり前の風景も、世界的に見れば特異な光景です。諸外国にとって学力とは「頭の学力」、日本が考える学力は「頭と心、そして、体も合わせた学力」だからです。そこに優劣をつけることはできません。ただ、言えることは、日本の学力が「頭の学力」に偏重してきていること、そして、逆に、諸外国が「心や体の学力」に目を向け始めていることです。その治安の良さや勤勉さに世界が驚愕していた時代が終わりを告げ、諸外国並みとなりつつある今、この日本という国のアイデンティティとは、一体、何なのでしょうか？「恐怖の長縄ぐるぐるゾーン」の意味を、もう一度見つめ直してみる必要があると思います。



2月の行事予定

2月 1日	家庭教育学級	2月 13日	油津小との交流（6年）
2月 3日	全校集会		いきいきサロン（3年）
2月 4日	クラブ活動⑨・クラブ見学	2月 18日	クラブ活動⑩
2月 7日	新入児保護者説明会	2月 21日	参観日